

泉屋博古館

SEN'OKU  
HAKUKOKAN  
MUSEUM



泉

THE MATERIAL ENHANCING  
THE BEAUTY OF EAST ASIA

UR  
BR  
US  
HI

東洋の美を彩る素材

2022 5/28 sat. - 7/3 sun.

同時開催・青銅器館「中国青銅器の時代」

〔休館日〕月曜日

〔開館時間〕10時～17時 入館は16時30分まで

〔入館料〕一般800円、高大生600円、中学生以下無料

※20名以上は団体割引20% 障がい者手帳ご提示の方は無料

〔主催〕公益財団法人泉屋博古館、京都新聞

〔後援〕京都市、京都市教育委員会、京博連、

公益社団法人京都市観光協会、NHK京都放送局

〔特別協力〕目白漆芸文化財研究所

龍岡堆黄円盆 明・万暦17年（1589）

泉屋博古館

# ふたつの堆黄盆、修復完了記念展

漆、それはアジアの人々が発見した不思議な素材です。

塗料・接着剤として用いられた漆は、長い時間をかけて地域ごとに独自の技法が磨き抜かれていきます。

本展では東アジアにスポットを当て、中国、朝鮮、そして日本で育まれた多彩な漆工品について、それを生み出した技法とともにご紹介いたします。

今回一挙に公開する住友コレクションの漆工品は、茶室、能舞台、香席、酒宴、書斎：かつて様々な場に顔をのぞかせた「実用」の品でした。会場では、漆が彩った近代数寄者のくらしについても探ります。ただ、漆の美も時の流れによる劣化には逆らえず、何百年にもわたって愛玩して伝えていくには定期的な修復を必要とします。

修復後初公開となる堆黄盆を例として、最新の修復技術もご紹介いたします。

## 会期中の催し

すべて入館料のみでご参加いただけます。

会場：当館講堂／各定員：40名／先着順  
予約制：5月10日（火）午前11時より受付開始  
当館WEBSITE・電話：0751771641にて

### ■「漆工品をめぐる修復技術」

日時：6月4日 14時  
漆工品の修復について現場の最前線からお話を伺う90分。

室瀬智弥（自白漆芸文化財研究所）  
鷲野谷一平（自白漆芸文化財研究所）

### ■「近代数寄者たちの漆のあるくらし」

日時：6月25日 14時  
関西を代表する近代の数寄者、村山龍平（号雪齋、朝日新聞社創業者と、住友友純（号春翠、住友15代当主）が愛した漆工品の魅力を語り合う90分。

田淵可菜（中之島香雪美術館学芸員）  
森下愛子（泉屋博物館学芸員）  
岡き手 竹嶋康平（泉屋博物館学芸員）

### ■青銅器講座

「中国古代における鳥の造形―その機能と神話―」  
日時：7月2日 14時  
古代人がうみだした鳥の造形は、現実のすがたを超越していた。その背景には何があったのか。

講師：小南一郎（泉屋博物館学芸員）

〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24  
Tel 075-1771641  
https://www.sen-okuji.jp/kyoto



# 泉屋博物館

SEN'OKU  
HAKUKOKAN  
MUSEUM



劣化をくい止めた技の数々詳しくは展示室で！

よみがえった龍、見参！



双龍図堆黄  
長方盆  
明万暦20年  
（1592）



天川室珠香合  
（18、19世紀）



楼閣山水図絵印材箱  
清時代（17、18世紀）



交通 京都市バス5、93、203、204系統 東天王町下車 東へ200m  
32系統 宮ノ前町下車すぐ



旅スル漆器  
茶道具を  
螺鈿の箱に  
つめ込んで  
さあ出かけよう



青貝山水図茶箱  
清時代（18世紀）

枝垂桜時鐘手箱  
戸島光宇  
大正時代（20世紀）



扇面謡曲時絵合席具  
象彦（八代西村彦兵衛）  
大正時代（20世紀）



鯉青海波時絵小鼓胴  
江戸時代（18、19世紀）



一八江文堆朱如意  
清時代（17、18世紀）



京名所黒漆漆膳  
「金閣雪景」  
下絵 今尾景年  
明治時代（19、20世紀）

麒麟鳳凰文時絵  
金沢懸地螺鈿長襪輪太刀拵  
明治時代（19世紀）



花鳥文堆朱軸盆  
清時代（17、18世紀）



漆の技で  
絵画に挑む  
ジャンルの  
壁を超える  
渾身の大作

新型コロナウイルス感染症予防・拡散防止のため、予定を変更・中止する場合がございます。当館のホームページ、Facebook、Twitter等で最新の情報をご確認ください。

秋草時絵文台 迎田秋悦  
明治、昭和時代（20世紀）

こんなところにも!?  
漆、裏方に回る。

能面増女  
江戸時代（17世紀）

色絵龍田川水指  
仁清  
江戸時代（17世紀）

伯庵茶碗  
鈴木宗節  
江戸時代（17世紀）

野菜盛籠図時絵額  
池田泰直  
明治35年（1902）頃